

令和8年度 猿投台中学校 特色ある学校づくり推進事業 計画書

※分野【a：国際交流・国際理解、b：地域連携、c：自然体験、d：環境教育、e：学力向上、f：交流体験、g：福祉・ボランティア、h：伝統文化、iその他（ ）】から選ぶ。

テーマ	生徒が主体的に取り組み、自立心を育める環境の充実	分野	f	交流体験
		その他		
学校づくりの視点（ねらい）	1 自ら学ぶ ともに学ぶ 本校の生徒は真面目で素直な生徒が多い。その反面、受け身的であり、自ら考え、行動するといった面を伸ばすことが課題である。そこで、生徒の主体性を育て、生徒一人一人の自立を支援する教育活動を工夫していく。 2 生徒の人間関係作り 学級活動、生徒会・委員会活動などで、生徒が学校生活を、自分たちの手でよりよくしていく自治的な活動を目指す。行事においても、生徒の主体的な取組を支援し、一人一人が達成感と自己有用感を味わえるようにする。 本校は伝統的に、体育祭における「クラスアピール」、文化祭での異学年交流などを通して、1～3年までの生徒が交流し、お互いに成長する姿がある。これらの行事を通して、活動を生徒自身が考え、主体的な活動になるように支援する。			
活動内容・計画	1 生徒会、委員会活動、学年ごとの活動 「CANペーン活動」を生徒が計画し、生徒に呼び掛け、活動を展開し、自分たちの手で学校生活を向上させていく。 2 体育祭、文化祭などの異学年交流 3年生一人一人がリーダーシップを発揮して、後輩にパフォーマンスを指導する。クラスアピール活動は生徒の計画、運営に委ね、主体的に取り組み、大きな連帯感、達成感を味わわせる。文化祭でも体育祭での異学年交流を生かし、学級での発表をお互いに見るなどして、自分たちでよりよいものをつくっていけるようにする。年間を通して、先輩・後輩のつながりを大切に活動を行う。			
補助員配置	1 校内整備員 ・校内整備 ・各行事で使用する資材の準備			
実績・期待される効果	・体育祭でのクラスアピールでは、どの学級も決められた時間において、活動内容を計画することで生徒が意欲的に取り組めると考える。 ・3年生は同じ団の下級生の練習に参加し、積極的にアドバイスをすることで異学年の関係が深まると考える。 ・それぞれの委員会が「CANペーン」活動を実施することで、自分たちの学校生活を見直し、よりよい学校生活をしていこうとする気持ちを育て、学校に対する誇りを育てることができると考える。			
検証方法	1 各活動後の生徒の感想などの分析 2 学校環境の変化の比較 3 学校生活アンケートの分析			